

目 基 標 本	活動目標	具体的な取り組み	実施事業				
			【行政】	【地域】	【公助の課題】	【共助の課題】	【課題解決策】
1 お互いを大切にしよう ひとづくり	1 人権の尊重と地域福祉の意識醸成	(1)人権の尊重を基盤とした福祉意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 人権にかかる講演会・研修会の開催</li> <li>人権・同和啓発推進事業</li> <li>★ 男女共同参画推進のための講演会・各種講座等の開催</li> <li>保育所・子ども園・幼稚園における男女共同参画教育の推進</li> <li>みんなの健康・福祉のつどい開催</li> <li>保育所・子ども園・幼稚園における世代間交流事業</li> <li>人権に関わる保育指導の実施</li> <li>総合的な学習等における福祉教育の推進</li> <li>飯塚国際車いすテニス大会の児童観戦</li> <li>教職員に対する人権に関する研修</li> <li>★ 市職員への研修</li> <li>市報、街頭啓発等による人権問題等啓発事業</li> <li>広報等による男女共同参画の意識啓発</li> <li>障がい者の人権啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権同和問題研修会</li> <li>福祉・健康に関する講演会（福祉のつどい）</li> <li>地区福祉委員研修（地区社協、地区ネットワーク委員会）</li> <li>小学生の福祉体験・福祉講座</li> <li>男性料理教室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会等への参加者の減少</li> <li>・高齢化による交流参加者の減少</li> <li>・自治会長が、自治会未加入世帯への訪問しやすい体制づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会等への参加者の高齢化・固定化</li> <li>・若い世代の方への参加の呼びかけが課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の要請に沿った内容、日程、講師等を検討する。</li> <li>・広報等を利用し広く周知し、参加増加を図っていく。</li> <li>・周知方法の更なる検討及び啓発冊子等の内容の充実を図る。</li> </ul>
		(2)地域活動への参加を高める意識づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>★ 自治会への加入促進</li> </ul>	自治会への加入促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会加入者の減少</li> <li>・若い世代に対する自治会加入促進が課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代の未加入者の増加、高齢による脱会者の増加による自治会加入者の減少</li> <li>・自治会活動の意義について意識向上の啓発が課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行政と地域が連携して加入促進に取り組む。</li> <li>・自治会加入の必要性を周知し、理解促進に努める。</li> <li>・地域での交流等で加入の呼びかけを強化する。</li> </ul>
2 地域福祉の担い手づくり	2 地域福祉の担い手づくり	(1)活動へのきっかけづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア・NPO等養成講座の開催</li> <li>★ 認知症サポーター養成講座</li> <li>★ e-マナビ事業（指導者）</li> <li>青少年ボランティアの育成</li> <li>★ ファミリーサポートセンター事業</li> <li>熟年者マナビ塾</li> <li>市報・ホームページ等による情報提供</li> <li>★ 生涯学習ボランティアネットワーク</li> <li>コスモス大学（指導者）</li> <li>放課後子ども教室事業（指導者）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>花壇の作成</li> <li>ふれあいマージャン教室</li> <li>福祉事業への見学の周知</li> <li>ボランティア体験の機会づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア養成講座等への参加者の減少</li> <li>・担い手の高齢化が課題。新しい担い手の発掘が必要</li> <li>・活動の対象者及びボランティア等活動の担い手に対する情報発信が課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い協力者や、役員後継者、まとめ役の不足、高齢化</li> <li>・活動の対象者及びボランティア等活動の担い手に対する情報発信が課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉関連事業やボランティア団体等の活動状況を広報等を利用し広く市民に周知する。</li> <li>・地域での事業において、ボランティア参加の呼びかけを強化する。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>地域福祉ネットワーク委員会への活動費助成</li> <li>各種団体等への活動費助成</li> <li>市報、HP等による団体のPR支援</li> <li>★ 子育て関係団体の活動のPR支援</li> <li>★ 各種団体の事務局業務</li> <li>各種団体の会議等への参画</li> <li>★ 市民交流プラザの利用促進</li> <li>★ サン・アビリティーズいづかの利用促進</li> <li>つどいの広場いづかの利用促進</li> <li>★ 空き店舗を活用した活動支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種団体への助成（事業助成）</li> <li>各種団体の広報支援（広報の内容充実）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢化及び趣味の多様化等により団体の活動が低下</li> <li>・ボランティア団体の固定化で利用者が定まっているのは良いが、利用状況が徐々に減少</li> <li>・空き店舗利用者が固定しているため、新規利用者の開拓が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金の適切な運用管理の把握</li> <li>・福祉関連事業・団体の活動等に関する周知をすすめる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関等が連携し、新たな利用者の開拓が必要である。</li> <li>・広報の内容を充実させ、積極的に地域住民への周知を継続・徹底する。</li> <li>・助成事業の経費を精査する。</li> </ul>

★ 公助の取り組みにおいて指標を設定しているもの